

平成 24 年度 広島市立袋町小学校 研究推進計画

1. 学校教育目標

「よく考え、思いやりの心をもつ、元気な子どもを育てる」

2. 研究主題

「言語活動を通して、自ら学び表現する、袋町っ子の育成」
－各教科等の学習における、話す・聞く活動を通して－ (3 年次)

3. 研究の内容・方法

(1) 言語活動の充実にむけて、基礎的・基本的な知識・技能を定着させる取組

ア. 教育活動全般における、6 年間を見通した「話す力・聞く力」の向上
イ. 国語科の「A 話すこと・聞くこと」の指導の充実

(2) 各教科において、言語活動を充実させるための取組

ア. 各教科において、「話す・聞く」活動を取り入れた計画
イ. 授業実践と授業公開

4. 研究主題設定の理由

本校では、一昨年度より「言語活動を通して、自ら学び表現する、袋町っ子の育成」という研究主題を設定し、各教科等の学習を通して研究を深めてきた。各教科等の学習活動に共通するものとして言語活動に焦点を当て、思いを表現し、互いに認め合う力の育成に向け、基礎・基本の確実な定着、意欲的で充実感のある学習活動を展開してきた。

本校の児童は、各教科等で言語活動を積み重ね、思いを書き表したり、その思いを図やグラフなどにして話したりする力を着実に身に付けつつある。しかし、自分の思いや考えを相手にわかりやすいように話したり、自分の考えと比べながら聞いたり、お互いに意見を交換して考えを深めたりする力が弱いという実態がある。特に、児童同士がお互いに相手意識をもって発表し合ったり、意見をつなげて考えを深めたりすることがまだ十分とはいえない。

言語活動は、どの教科等においても、物事をまとめ、考えを整理し、それを伝え合ううえで大変重要な活動である。言語活動を充実させることは、児童の深い理解と思考力につながり、また、児童同士の思いの交流、互いを認め合う力にもつながると考えられる。

また、言語活動を充実させるためには、「話す・聞く」力の基礎的な部分を養う必要がある。そこで、国語科の内容「A 話すこと・聞くこと」に重点をおいた指導と、6 年間を見通した、日々の教育活動全般の中での「人の話を聞く」、「自分の考えを話す」ことに意識をおいた活動をすすめていくことが重要と考える。

そこで、本年度は「言語活動を通して、自ら学び表現する、袋町っ子の育成」の三年次として、読む力、書く力の育成は継続しながら、各教科等の学習の中で、話す・聞くという言語活動に重点を置いて研究を深め、児童の思考力や判断力、表現力の向上につなげていきたい。

6. 研究計画

◎これまでのシリーズ公開研を継続する。全授業，協議会をもつ。また，講師を招聘し指導助言を受ける。

- 全体研修会…全教員参加。司会・記録は教務部
- グループ研修会（G研）…低・中・高&専グループで全員参加。時間が合えば他のグループもできるだけ参加。司会は教務部。記録はなし。

◎指導案・各教科の取組の検討は，全授業分，夏季休業中に行う。

（但し，夏季休業より前に実施のものは以下の通り）

7. 授業提案と研修のまとめ

○学習指導案（添付資料）・各教科の取組は，研究授業日の一週間前までに，研修担当者に提出する。（→担当指導主事に送ります。）グループで増刷・綴じ込みをし，全教職員に配布する。

※指導案の形式は，各教科研究会の形式でよい。

※当日までに，変更があった場合は，その部分を印刷し再配布する。（講師の分は研修担当か教頭・校長へ）

※本時のポイントを指導案の最後に記述する。

○研修のまとめは，以下の要領で行う。

①全体研は教務部が，G研は各自で記録を行う。（各Gの教務はその内容を研修担当に報告する）

②下の書式で，授業者が【本時の（聞く・話す）ポイント】と協議会後の【考察】を作製し，データはサーバーに保管し，ペーパーは1部研修担当に渡す。

【例】

○月○日（△曜日）	袋町 花子	算数科（6年：およその面積）
本時のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを図や式で表したいという気持ちを持って取り組む。 ○友達の考えに興味を持ち，聞いてみようとする。 ○友達の考えを受け，自分の考えを深める。（新しい考えを発見する） 	
協議会より （研修担当）	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワークシートをたくさん用意していれば，もっと自由に（躊躇せず）表現でき，その分伝えたいという気持ちを高めることができた。 ◎子どもの発言や説明に，教師が関わりすぎていた。もう少し，児童の自由な発想や，つたない説明に任せてみてもよいのではないか。その方が，児童の「何？」「聞いてみよう。」という気持ちを持たせることができるのではないかと思う。 ◎スクリーンを使って，友達の考えを見て共有できたことは，聞いて自分の考えを深めることにつながったと思う。 	
考 察 （授業者）	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の考えたことは意欲的にあわらそうとしていた。相互に交換して説明する活動など（小集団での集団解決の場合）があれば，伝えようとして，さらに表現が深まったのかもしれない。 ◎どの子も自分の考えを持っていたし，何とか図や式に表して表現しようとしていた。課題設定としては興味を持てる内容だったと思う。 	

自ら学び、表現する子ども



- 双方向の伝えあいを大切にできる子ども
- 低: 子どもと子どもが意見をつなぐ。(教師の舵取り)
- 中: 友達が話した意見や考えを受け、すぐに考えを述べる。
- 高: 自分の立場を明らかにして述べる。

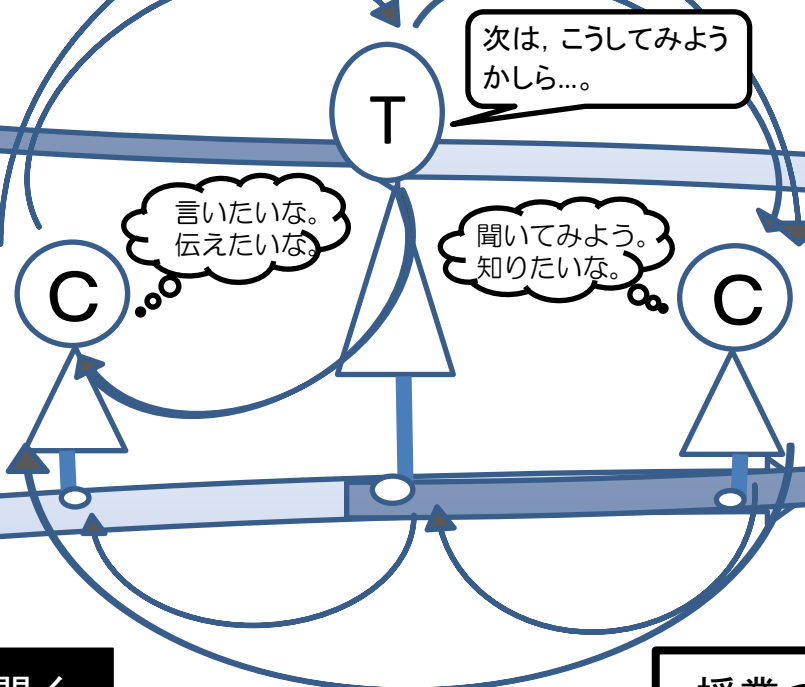
自ら学び、表現する教職員集団



- 自らの実践に課題意識を持ち、指導案検討・授業公開などを通して、日々の実践に向けて、向上し続けようとする研究集団

言語活動の充実に向けて、
基礎的・基本的な知識・技能を定着させる取組

教育活動全般における6年間
を見通した「話す・聞く」力の充
実
国語科「話す」・「聞く」の
指導の充実



言語活動を充実させるた
めの取組

授業実践と授業公開

各教科において、「話す・聞く」活
動を取り入れた取組

話す

- 聞いてほしい人の方を見て(体を向けて)
- 話し始めは「はい」という返事で(つぶやきと発言の区別を)
- 話し終わりは「～です。」「～ました。」で
- 聞き取りやすい声・話し方(アナウンサーのように)

聞く

- 話している人の方を見て(体を向けて)
- 最後までだまって(話している人は一人)
- 問いかけに対しては返事を(うなずきながら)

授業づくり

- 各教科の学習活動を通して、「話したくなる(話す必要がある)・聞きたくなる(聞く必要がある)」課題の精選、発問の工夫など。
- 指導案の検討や研究授業を通して、他の教科の実践を学び、自らの指導に生かす。

学級づくり

- 互いを尊重し、安心して話せる集団づくり。
- 学びの場を尊重できる集団づくり。
- ともに成長を喜ぶことのできる集団づくり。